本路線の経過とこれまでの取組

平成26年度から	地下鉄新線検討調査を開始（区）
平成27年　7月	「広域交通ネットワーク計画について」公表（都）
平成28年　4月	交通政策審議会答申「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」（国）
平成30年度から	「都心・臨海地下鉄新線推進大会」の開催（区）
令和　3年　7月	交通政策審議会答申「東京圏における今後の地下鉄ネットワークのあり方等について」（国）
令和　3年　9月	「都心部・臨海地域地下鉄構想 事業計画検討会」の設置（都）
令和　4年11月	「都心部・臨海地域地下鉄構想 事業計画案」の公表（都）

早期実現に向けた今後の取組

① 地域との連携・協働 周知活動の継続開催

パネル展などによる周知活動を今後も継続して開催し、地域のさらなる機運醸成を図ります。

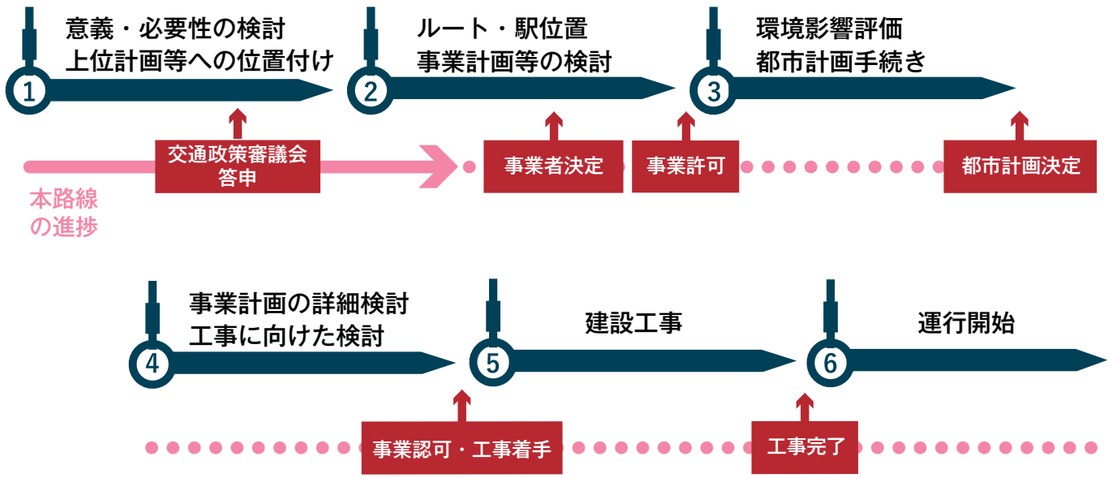
② 関係機関への働きかけ

都、関係自治体や鉄道事業者などの関係機関への働きかけを引き続き行っていきます。

③ 周辺開発事業との協議・調整

開発事業と連携した駅づくりや、通路接続などの歩行者ネットワーク形成を図るため、周辺開発事業者と協議・調整を進めます。

[参考]鉄道事業の一般的な流れ



都心・臨海地下鉄新線推進協議会

日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会　全銀座会　築地食のまちづくり協議会
勝どき・豊海連合町会　晴海連合町会　中央区議会都心・臨海地下鉄新線整備促進議員連盟　中央区

お問い合わせ　中央区環境土木部交通課　電話 03-6281-5064

地域のちからでまちを輝かせよう

都心・臨海地下鉄新線

～早期実現をめざして～

都心・臨海地下鉄新線推進協議会

都心・臨海地下鉄新線とは？

区部中心部と開発が進む臨海地域をつなぐ新線構想

平成28年４月、国土交通省の交通政策審議会がまとめた答申において「都心部・臨海地域地下鉄構想の新設及び同構想と常磐新線延伸の一体整備（臨海部～銀座～東京）」は、国際競争力強化の拠点である都心と臨海副都心とのアクセス利便性向上を実現する路線とされました。

また、令和３年７月、同交通政策審議会がまとめた答申において「常磐新線延伸（TX）との接続も含め、事業化に向けて検討の深度化を図るべきである。」とされました。

さらに、令和３年９月、東京都は答申を受け、ルート・駅位置や事業スキーム等の事業計画を検討するため、「都心部・臨海地域地下鉄構想 事業計画検討会」を設置し、令和４年11月には事業計画案が公表されるなど、事業化に向けた具体的な検討が進められている新線構想です。

秋葉原や羽田空港とつながると…

経　路	距　離	時　間
東京（仮称）～有明・東京ビッグサイト（仮称）（都心・臨海地下鉄新線）	約6.5km	約10分
秋葉原～羽田空港（TX延伸計画～都心・臨海地下鉄新線～りんかい線～羽田空港アクセス線）	約20km	約30分

晴海から羽田空港まで

現在：	晴海－（バス）－豊洲駅－（バス）－羽田空港	約35分
将来：	晴海（仮称）－有明・東京ビッグサイト（仮称）－羽田空港駅	約20分

晴海からつくばまで

現在：	晴海－（徒歩）－勝どき駅－（鉄道）－つくば駅	約75分
将来：	晴海（仮称）－東京（仮称）－つくば駅	約60分

※いずれも区検討調査による想定

都心・臨海地下鉄新線の意義・必要性

都心・臨海地下鉄新線は、中央区はもとより、東京と日本の持続的成長をけん引する基幹的な交通基盤であり、地域的にも広域的にも大きな意義のある路線です。

地域的な意義・必要性

①移動の円滑化

晴海地区は既存の駅勢圏から外れています。高い輸送能力を有する地下鉄の整備により、駅勢圏が広がり、移動が便利になります。

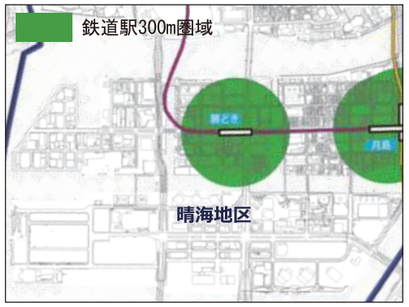
②既存駅周辺の混雑緩和

勝どき駅などでは、今後ますますの混雑が予想されます。本路線の整備により、既存駅および駅周辺の混雑が緩和され、歩行者の安全性・快適性が向上します。

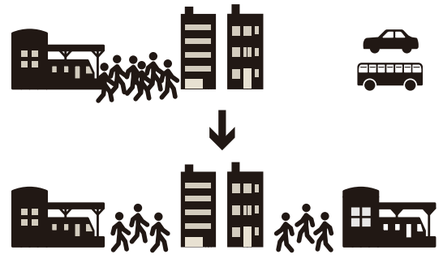
③沿線まちづくりによる交通需要への対応

日本橋川周辺や東京駅前地区、築地市場跡地、勝どき・豊海地区、晴海三・四丁目など、各地区で進む開発により増加する交通需要への対応が図れます。

①鉄道の駅勢圏（出展：中央区総合交通計画2022）



②既存駅周辺の混雑緩和



広域的な意義・必要性

①臨海部の背骨となる交通基盤の整備

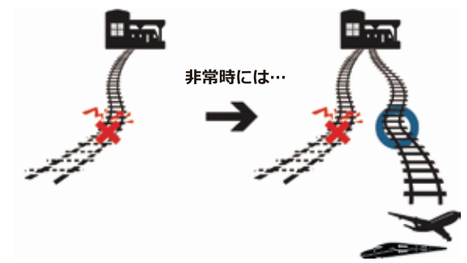
さらなる発展が期待される臨海部の鉄道網を充実させ、東京を持続可能な都市にし、日本の成長を確かなものとしていきます。

②広域ネットワーク強化

つくばエクスプレスやりんかい線と接続し、つくばから羽田空港までのネットワーク化を図ることで、国際競争力の強化につながります。

③鉄道網の充実

多数の鉄道網の整備により、交通の選択肢が増えるとともに、新幹線駅や空港への複数ルート化を図ることで、速達性の向上、シームレス化だけでなく、非常時の輸送機能確保が可能となります。

③沿線のまちづくり　①臨海部の背骨となる交通基盤

③複数ルート化